

拠点形成研究交流報告：アルゼンチン拠点 CERELA-CONICETを訪問し研究交流を実施、コンセプション大学（チリ）でサマースクール・学術交流に参加

北澤春樹CFAI副センター長と大学院生2名（水野滉也君、中野祐香さん）が、アルゼンチン国立乳酸菌研究所(CERELA-CONICET、アルゼンチン研究拠点)を訪問(2019年1月7～22日)し、アルゼンチン拠点メンバーと「乳酸菌の粘膜免疫調節機構」に関する共同研究の進捗について情報交換をすると共に、研究交流を行いました。訪問期間中、チリのコンセプション大学(チリ最古の私立総合大学)で、サマースクール(International Course 3rd Version “Probiotics: Microbiological, immunological and biotechnological aspects”)およびシンポジウム(“Probiotics: From the laboratory to the market, a national and international vision”)に参加する機会が得られ、北澤准教授は、アルゼンチン拠点メンバーのJulio Villena博士と共に講師を務めました。大学院生2名は受講生として参加し、共同研究成果についてそれぞれ発表した他、学生交流も行うことができました。昨年度、動物資源化学分野で計約5ヶ月間共同研究を行ったValeria Garcia Castilloさん(サマースクールのインストラクターを務めました)とも再会することができました。北澤准教授による講義、シンポジウムや大学院生による研究発表では、参加者の皆さんに興味関心を持って頂き、共同研究の発展が大いに期待されました。

今回の訪問では、アルゼンチン国立ツクマン大学との学術交流協定に関するお話しを進めることができた他、コンセプション大学において、生物科学部長と面談し、学術交流協定締結に向け積極的に進める旨の合意に至りました。今後、両校とのさらなる学術交流が進み、海外交流拠点の拡大から両校との共同研究の発展と若手研究者育成の推進が大いに期待されます。

